



2011年4月25日



2014年9月23日



2016年1月21日

画像提供/大槌町

中心市街地復興の定点撮影

盛土造成が進んでいく様子がわかる
(大槌町城山公園より)

未来へ向かって [3・11希望の灯り]

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災で被災した方々を励まそうと全国から種火が集められ、神戸市の東遊園地に「1・17希望の灯り」として点灯された火を分灯したものの。中心市街地を望む城山公園内に設置。陸前高田市、福島県南相馬市にも分灯されている



避難者の中で 自発的な動き

被災時には職員自身も被災者になるため、本来避難所に配置する職員を予定どおりに配置できず、ライフラインも断絶。救援物資が届かないことも。避難者同士が「自助」「共助」の精神により、避難所運営を行うことが不可欠になる



三陸の海の恵みをもたらす大槌湾。いまは穏やかな表情で私たちを迎えてくれる。漁も再開され、日常を取り戻しつつあるように見えるが、未だに仮設住宅で暮らす人々も多い



非現実的な一夜

屋上で身を寄せ合い、助けを待った平野町長ら22人。多くの仲間が亡くなった中で自分たちが助かった後ろめたさもあり、顔を合わせて当時の話をしたことはこの5年間で一度もないという



車避難で多くが犠牲に

車で避難したため、車中で犠牲になった方々も多い。大槌町では420人が行方不明のまま

大規模災害時、行政や消防機関などの「公助」には限界があります。自分の身は自分で守る「自助」、地域住民同士で組織的に対応する「共助」が絶対に必要です。発生時間が季節によって変わってきますが、公助が動き出すにはある程度時間がかかるということを、知っておいてほしいと思います。

業務は暗中模索の鉄人レース

大規模災害が発生した場合、混乱する上に、通常業務以外の緊急応急業務などが発生します。それらは想像を絶する量と時間です。ある人はそれを「マラソン」と例えますが、それは大きな間違いです。走る距離の定めのない、「鉄人レース」になります。どのくらいかかるかわからない。道なき道を進まなければならない。暗中模索の時間が続くのです。

緊急事態とは何か。それは経験したことのない需要が増大することです。ヒト・モノ・カネ・情報、その需要を減らすためには、優先順位を決めて進めなくてはなりません。

大槌では、震災前に比べ一般会計

いでください。皆さんの命は、住民の命でもあります。

常識やルールだけでは 乗り越えられない

大槌では、自治会長さん達も避難誘導の途中で犠牲になりました。そのため、避難所や仮設住宅でのリーダーがいなくなりました。民生委員をやる人は今でもいません。人が亡くなるということは、「モノ」や「カネ」で賄えない財産が無くなるということです。現場で大切なことは、常識や既存のルールに縛られ、そのとおりに動くことではありません。ルールや既存だけでは、大震災を乗り越えることはできません。命を一番に考える。これさえ大切にしていれば何とかあります。どうか、命を守ってください。

の投資的経費が11・5倍になりました。100割以上の業務量に対応するためには、外部からの支援が必要です。県内外の自治体から派遣をいただき、人的支援により、なんとか住民サービスを確保していますが、あれもこれもできるわけではありませぬ。激務の中、長時間労働と震災ストレスで心の病になる職員が続出し、自殺者も出てしまいました。未だに、専門医のケアを必要としている者も多くいます。

自分だけのものではない命

私たちは多くの職員、消防職員を失いました。さまざまな困難の中、無我夢中になって満身創痍で働きました。その無理がたたって、心のケアが必要になる職員や、退職する職員を生み出してしまいました。

職員自らの命を守ることもできない自治体が、住民の命を守ることもできるのか。そこに尽きると思います。

「大規模」や「未曾有」という言葉で、全部を覆い隠してはいけません。自治会関係者の方など、支援をいただく方々も、自分の命を自分だけのものと思わな

講演会来場者の声

私は大槌出身です。今回の震災で、両親と弟を失いました。今の自分には海老名に家族がいるので、家族に支えられていると思っています。震災時には市の各種団体、市民の皆さんに、物心両面からサポートいただいたことを、大槌出身者として、この場をお借りしてお礼を申し上げます。と思います。

今日見せていただいた映像の中に、自分の実家が写っていました。初めて、自分の家が津波にのみ込まれていく姿を見ました。あらためて大変なことが起こったんだという思いになりました。最近1年に1度くらいしか帰っていませんが、街並みも変わってきまして、どんなまちになるのか出身者として期待しています。